

- ④ 自己洞察を図るため、検査結果の内容について、どのように感じ、受けとめているかを尋ね、考えさせる。
- ⑤ 検査結果を過大に評価し、子供のことについて断定するとか、また、誤解を与えるような言い方はしないようにする。

(2) 親への伝え方

子供の不適応を解消するために、親が今まで気づかなかった子供の側面について、考え直したり、態度を変えてもらいたいと願う場合は、結果を知らせることが望ましい。この場合も、相手（親）の状態に応じて、わかりやすく、誤解のないように説明することが大切である。

親との面接に際しては、次の点に留意したい。

- ① 面接に際し、緊張や不安を除去するため、家庭での子供の様子を聞くなどして、話しやすい雰囲気をつくる。
- ② 常に親と共に考える姿勢を保ち、親の年齢、性別及び養育態度の状況に応じた面接を心がける。
- ③ データそのものを知らせるのではなく、家庭及び学校での生活状況との関連でとらえ、問題に適切に対応できるように援助する。